

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年7月23日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部国際日本学科(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年6月26日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	台湾
留学先大学	国立台湾大学(日本語名) 國立台灣大學(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	中国語/英語
留学期間	2022年9月～2023年6月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): 人類学部 (現地言語での名称): 人類學系 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input checked="" type="checkbox"/> その他: 人類学部に籍を置いていたものの様々な学部の講義を履修出来た
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月上旬 ～12 月中旬 2 学期: 2 月中旬～6 月上旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	約 34000
創立年	1928

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (台湾元)	日本円	備考
授業料	-	-円	明治大学に納入分
宿舍費	82,000	380,000 円	民泊サイトで予約したところに住んでいたため、月毎に家賃が異なるなどまちまちだった。
食費	90000	400,000 円	1 日あたり 1000 円が平均。
図書費	300	1300 円	
学用品費	5000	20,000 円	教科書、ヨガマットなど
携帯・インターネット費	7000	30,000 円	
現地交通費	15,000	70000 円	学校と家の往復で 250 円程度 (□大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	2000	10000 円	美術館や博物館など
被服費	5000	20000 円	基本的には日本から持っていった
医療費	2000	10000 円	病院代は保険で賄ったがドラッグストアで虫除けスプレーや風邪薬などを購入する機会があった
保険費	25000	100,000 円	形態：渡航前に必ず加入しなければならない明治大学の保険で全て賄った
渡航旅費	15000	70000 円	スケジュールを変更できるようにオプションを追加したため若干割高になった。
ビザ申請費	8000	40000 円	事前に健康診断を受けたりしたため詳細な金額を把握していないがそれなりの金額がかかった覚えがある
雑費	25000	100,000 円	具体的に何がかかったというわけではないが、月換算で約 10,000 円程度はかかっていると思う
その他	45000	200,000 円	前述のビザ申請のための健康診断やコロナ禍故の台湾入国後の 10 日間のホテルでの隔離は高かった。
その他		円	
合計	350,000	1,500,000 円	全体的に少し高めに計算してはいるものの、コロナ禍特有の事例や円安などが影響して事前に考えていたよりも費用が高んだ。

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地:	東京(成田空港) 目的地: 台北(台湾桃園国際空港) 経由地:
復路 出発地:	台北(台湾桃園国際空港) 目的地: 東京(成田空港) 経由地:
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: Starlux Airlines 料金: 70000	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: GO TO GATE →このサイトはあまりお勧めしません。評価があまり高くありませんし、カスタマーセンターへの問い合わせも英語が基本になるため、良い選択にはならないと思います。台湾程度の距離でしたら、大手の航空会社から直接買っても値段に大差はないのでプラス 1 万程度で安心感を買う方が賢明な選択になると思います。) <input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)	
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2) 部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)	
3) 共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4) 住居を探した方法:	
第一候補には大学側が提供している寮がありましたが、コロナの影響もあり、入居できる人数が限られていました。入居者は抽選で選ばれますが、外れてしまったため、AirBnB で探しました。	
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
良い点で言えば、さまざまな人と友達になれることです。私は約9ヶ月間住みましたが、多くの人は2～3ヶ月の滞在なので人の入れ替わりも多く、世界中の様々な人と仲良くなるのが出来ました。悪い点で言えば、ひとえに家が汚いことです。これは同居していた大家の方にも問題があるのですが、バスルームもキッチンも常に臭く、汚かったです。フラットメイトだったイタリア人は我々が住む家を犬小屋と呼んでいました。私は以前も海外でかなり汚いところに滞在していた経験があったのでまだなんとか耐えましたが、それでもまたあそこに住もうとは思いません。ネットではどの物件もよく見えるので、事前にある程度覚悟しておく必要はあるかもしれません。ただ家賃は寮に住んだ場合よりも安く抑えられました。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所: 現地の総合病院)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
 (例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

外務省からの連絡は度々あったので目を通すようにはしていました。また現地の台湾人から情報が入ることもありました。幸い台湾は治安が良い場所ですので、犯罪に巻き込まれることはありませんでした。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

家の WiFi も大学の WiFi も不安定だったため、そういった際のインターネットの利用はほとんど携帯か携帯を介したデザリングを利用していました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカード(スマホ内に登録している)、LINEPay、現金で殆どを賄っていました。台湾は電子決済が進んでいると言われているものの、やはりローカルなレストランなどでは現金しか使えないことが殆どだったので現金は常に持ち歩いていた。LINEPay もたまたま私が使っている smbc のクレジットカード経由で支払いできることが分かったので、バーコード決済に対応している大学内の食堂などで頻繁に利用していましたが、基本的には現地で口座を開かないと使えないはずでした。

現金は日本でも使っているキャッシュカードを現地の ATM に挿すと台湾元が引き出せ、引き出した分の日本円が日本にある自分の口座から引き落とされるシステムを利用していました。そのため基本的に現地で新たに口座を開く必要はありませんでした。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

台湾では日本の食品や日用品のほとんどを手に入れることができるため特にこれといったものはないと思います。ただ、日本でも馴染み深い製品は値段がとても高くなっているので私は忌避して購入することはあまりありませんでした。衣服に関しても、ユニクロなどはありますが値段が高くて買う気にならないので、日本から持っていくのは良いと思います。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
28 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Chinese Enhancing Course	
科目設置学部・研究科	
履修期間	半期
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 100 分が 2 回
担当教授	Tsai Meng-Fang
授業内容	基本的には日常的に使う中国語を学ぶコースという触れ込みにはなっていますが、もう一つある General Chinese というコースを補強した内容といった感じでした。
試験・課題など	各単元ごとのテスト、Oral test、プレゼンテーション、期末試験
感想を自由記入	語学を勉強する上ではその量というのが大事になってくるため、このコースを受講することはとても意義深いことではあるのですが、とにかく朝が早いため、出不精で朝が苦手な私にはなかなか厳しい講義でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to East Asian Studies			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が1回		
担当教授	Shih-Jiunn SHI		
授業内容	東アジア全体の政治、経済、文化、人々、社会について学ぶ講義。それぞれの分野について地理学、社会学、政治学、文化学の観点から考えていくといった内容でした。		
試験・課題など	期末レポート、プレゼンテーション		
感想を自由記入	とても面白かったのを覚えています。特にウクライナの戦争から東アジアにおける台湾と中国の関係性を中心に東アジアの政治情勢はこの後どのように考えていけば良いのかというのが受講者の関心を集めていましたので、生徒同士の議論もあり、なかなか白熱していました。台湾人も多く参加していたので、台湾人が現在の中国との関係性をどのように捉えているのかを知るのにも良い機会になりました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Seminar on Asian Democratization			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が1回		
担当教授	Min-Hua Huang		
授業内容	東アジア・東南アジア諸国の民主化プロセスを紹介する。東アジア・東南アジア諸国の民主化プロセスを、体制タイプ別に、自由民主主義、選挙民主主義、選挙独裁主義、非民主主義の4つのグループに分類する。近代化理論、市民的市民権理論、批判的的市民権理論、政治的社會化理論の適用に焦点を当て、体系的に比較する。		
試験・課題など	期末レポート		
感想を自由記入	教授が話している内容を理解するのが難しかった覚えがあります。ただ日本のように戦後、気づいたら民主化していた国とは違う、自分たちで民主化を勝ち取ったアジアの国々といまだ民主化していない国々の歴史、その道りを知ることは同じアジアの人達を理解することに繋がるのではないかと考えながら、なんとか食らいついていました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Exploring Taiwan: Natural Resources and Conservation and Management			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回		
担当教授	Chi-Chang Liu		
授業内容	台湾内における自然や動物たちの保護、保全がどのようにして行われてきたかを中心に学ぶもの。台湾人の研究者たちが各週ごとにゲストスピーカーとして招かれ、講義をする。		
試験・課題など	プレゼンテーション		
感想を自由記入	自然豊かな台湾における環境保護の実情や足跡を知る機会というのはほとんどない事なのでとても興味深いものでした。毎週異なるスピーカーがそれぞれの研究分野について分かりやすく、熱く語ってくれていたのがとても印象的です。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Exploring Taiwan: Film and Social Culture in Taiwan			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 100 分が 1 回		
担当教授	Jen-feng Ku		
授業内容	<p>映画は芸術であると同時に、私たちの文化や社会的衝動を映し出すメディアでもある。映画の世界と私たちが生きる世界は、しばしば鏡の裏表にある 2 つの現実のような役割を果たし、互いに反射し、暗示し、意味し、対応し合う。このコースでは、過去 20 年間の台湾映画をいくつか取り上げ、それらを通して、台湾の社会文化にどのような顕著な現象や変化が起きているのかを理解する。ある作品は台湾の現在の社会政治状況を語り、ある作品は新たな文化的傾向を反映し、ある作品は社会問題を示唆し、ある作品は歴史へのオルタナティブなアプローチを提案する。いずれにせよ、これらの映画は、私たちが台湾と呼び、生きている世界と対話するための様々な試みである。</p> <p>このような思考の流れの中で、私たちはこのコースを通して、台湾映画と台湾の社会的傾向や出来事とのつながりを確立することを学び、映画が娯楽や芸術である以上に、社会文化が「現実」である以上に関わるようになるのです。台湾映画を「観る」だけでなく「読む」ことで、台湾の社会文化を理解し、考察することが期待される。</p>		
試験・課題など	期末レポート		
感想を自由記入	上記の講義内容はシラバス記載のものを翻訳したのですが、主には 1980 年代に台湾映画界で起きた Taiwan New Cinema というムーブメントについて学ぶものです。私は前期の中でこの講義が一番好きでした。正直、台湾の映画は「呪詛」くらいしか観た事はありませんでしたが、台湾には優れた映画作品が数多くあり、実際に講義の中で見た台湾映画はどれもとても面白かったです。講義を共に受講していた友人たちとあのエンディングは～だった、あの表現は良かったなどと話すのがとても楽しかったのを覚えています。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to English Presentation			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 150 分が 1 回		
担当教授	Kevin kau		
授業内容	将来的にアカデミックな場でのプレゼンテーションのために、英語でのプレゼンテーション技術やテクニックを向上させることを目的として、プレゼンテーションにおける基本的な知識や情報、あらゆるプレゼンテーションで利用できるスキルを学ぶ講義。		
試験・課題など	プレゼンテーション(全 5~6 回)		
感想を自由記入	ただでさえ他の講義でもプレゼンすることは多いのに、この講義は 2、3 週に一度必ずプレゼンをする機会が回ってくるので、準備がしんどかったのを覚えています。そもそもプレゼンの技術を学んでどうするんだとも思っていました。単位を稼ぐためになんとなく受講することにしたのだと思います。ただ最近、インターンをしている企業では英語のプレゼンを行う事があるのでなんとこの時の経験が役立ってしまっているのです。文系学部にいるとその後の仕事において大学で学んだ事が直接活きる経験は多くないように思いますが、この講義は数少ない例外に当たると思います。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
General Chinese Language Course			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期(前期)		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 150 分が 2 回		
担当教授	Tsai Meng-Fang		
授業内容	中国語の基礎、文法や単語、発音などを学ぶコース。受講者のレベルによってクラス分けが行われているため、既にある程度中国語が話せる学生は会話がメインになっていると聞きました。		
試験・課題など	各单元ごとのテスト、Oral test、プレゼンテーション、期末試験		
感想を自由記入	午後 6:30~9:00 過ぎまでといういつ夕食を食べておけば良いのかわからない時間帯の講義でした。おすすめは事前に食べておく事です。 私は中国語を勉強した経験がない完全な初学者だったのでこの講義はかなり有意義かつ中国語の面白さにも気づく事ができた講義でした。このクラスメイトとは週に 5 時間も顔を合わせている上に言語を学ぶ講義なので比較的仲良くなりやすい授業だと思います。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Philosophy			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が1回		
担当教授	Nihel Jhou		
授業内容	哲学分野において基礎を成している様々な問題を各講義で紹介していきながら、その問題に対してこれまで哲学者はどのように向き合ってきたのかを知るという内容。		
試験・課題など	各講義で予習確認テスト、プレゼンテーション(6回)期末テスト		
感想を自由記入	<p>大学で哲学を勉強するのは大学に進学した理由の一つでもあったので受講することを決めましたが、理解するのが本当に大変でした。これは自分の英語力の乏しさが原因なのか、そもそも理解力が足りないのかわかりませんが、苦勞しました。この講義は3週間ごとにグループプレゼンがあるのでその準備もなかなか大変だったと記憶しています。ただ内容自体はとても面白かったです。例えばトロッコ問題を目にすることは生きている中で度々ある事ですが、その問題に対して哲学者たちがどのように考えてきたのかを知ることは多くないので良い機会になったと思います。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
General Chinese Language Course			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期(後期)		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が2回		
担当教授	Lo Mei-Hsiu		
授業内容	中国語の基礎、文法や単語、発音などを学ぶコース。受講者のレベルによってクラス分けが行われているため、既にある程度中国語が話せる学生は会話がメインになっていると聞きました。		
試験・課題など	単語テスト、各単元ごとのテスト、Oral test、プレゼンテーション、期末試験		
感想を自由記入	<p>前期と進め方などは同じですが、講師が異なるだけで講義全体の雰囲気も変わってきます。例えば、後期の先生はよりインタラクティブな先生で質問などをしやすい空気感でした。言語は話す人によって解釈や捉え方が違うので前期と後期で講師が違うのも良い点だったと思います。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to 3D creation for the metaverse			
科目設置学部・研究科			
履修期間	t 半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 150 分が 1 回		
担当教授	Edward Hsieh		
授業内容	Blender を用いた 3D Creation の技術や 3D グラフィックや Virtual Reality などの知識を学んだり、実際に Metaverse 空間におけるサービスを提供している企業についても学ぶ。		
試験・課題など	Blender での 3D object の作成・提出、プレゼンテーション		
感想を自由記入	とても面白い講義でした。おそらく現在所属している明治大学の学部で学ぶ事が難しかったと思います。名前だけやたら聞くメタバースとはなんぞやというところから始まり、実際にメタバース空間でのサービスが知らぬ間にこんなに発展していたのかという驚きを得るまでの一連はとてもワクワク感に満ちていました。後期の中では最も面白かった講義かもしれません。た		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
The Science of joyful living			
科目設置学部・研究科			
履修期間	半期		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 150 分が週 1 回		
担当教授	MALABIKA MISTY DAS		
授業内容	主にヨガなどの実践に加え、幸せであるとはどういう事なのか、幸せである精神状態をもたらすためにはどうすれば良いのかというのを科学的な知見から学んでいく講義。		
試験・課題など	毎週講義後のレポート、期末レポート		
感想を自由記入	以前、明治大学から国立台湾大学に留学されていた方の留学体験記を読んで、この講義がおすすめとのことだったので受講しました。ヨガを行うことで精神的な充足感が得られたのは間違いありません。山の中を歩き、自然の中でヨガをする経験もなかなか珍しいもので楽しめました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Philosophical Questions about Time Travel	
科目設置学部・研究科	
履修期間	半期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が週1回
担当教授	Nihel Jhou
授業内容	タイムトラベルというテーマとそれに関わる様々な問題に関して過去の哲学者たちがどのように考えてきたのかを学ぶというもの。
試験・課題など	各講義で予習確認テスト、プレゼンテーション(6回)期末テスト
感想を自由記入	とても面白い講義ではあったが、前述の哲学の講義同様とても難しい内容の講義でした。序盤、中盤あたりまでは理解できていましたが、終盤になってくると講義内だけで理解しようとするのはかなり無謀で周りの受講生と苦悩しながら講義についていったように覚えています。ただ時間を戻る(未来に進む方はあまり扱われなかった)ということについて考えを巡らせてきた哲学者たちの足跡を少しでも見られたのはとても興味深い経験になりました。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	出願・選考
	8月～9月	
	10月～12月	
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	航空券購入、ビザ申請・取得、滞在先の確保
	8月～9月	渡航、講義開始
	10月～12月	期末試験、前期終了
留学/帰国年	1月～3月	冬休み、後期開始(2月)
	4月～7月	後期終了(6月)帰国(6月末)
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

まず留学先として選んだ国立台湾大学はとても素晴らしい留学先であったと思います。とても充実したキャンパスに世界各国から集まっている多様な人々との出会い、これらはなかなか日本では味わう事ができないかもしれません。台湾での生活もご飯はどれも美味しい上に安いのでとても楽しめると思います。時々、味に飽きたと感じる時が来ますからその時はバーガーキングに1週間でも通えば、台湾料理がまた輝き出します。以前、国立台湾大学に留学されていた方の体験記でもオススメされていたこの学校ですが、私もお勧めします。とても素晴らしい環境でした。

留学を志す方へというものは大してありません。上記のタイムチャートを確認して貰えばわかるように私はほとんどロクな準備を経ずに留学を迎えた経緯があります。それはコロナ禍ゆえに本当に留学できるのか不透明だったという理由付けができるかもしれませんが、シンプルに怠っただけとも言えます。台湾を選んだのも面接の際にペラペラと話したことが嘘だとは言わないまでも、地理的に近い、物価も比較的安い、日本以外のアジアの国に住んでみたい！という思いがあったからという現実的かつ些細な動機から来たものです。

従ってこのような私からこれから留学を志す方にアドバイスなどあるはずもありません。もし伝える事があるとすれば案外なんとかなるということくらいです。もちろん、様々な準備をするに越したことはありませんし、私ももっと中国語を勉強していればと思ったことは何度もありました。ただ必ずしもそれらをしなければ海外で暮らせないということはありません。それらの理由で留学を諦めるのならそれは勿体無いことであると私は思います。それはこの経験ができる時期というのは人生において案外多くないような気がするからです。そしてこれは多くの人が納得するところではないでしょうか。

もしお金と周りからの理解という二つの壁をクリアしているのならば、ぜひそのまま進んでみてください。素晴らしい出会いと体験が待っていると思いますし、そうなることを願っています。